

三重県農業の将来を考える懇話会品目を特定した部会(案)について

水田農業部会 候補（略歴等）

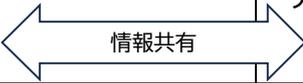
		氏名(市町) 所属	業界	概要
農業者	1	森 大輔 (伊賀市) (株)ヒラキファーム 代表取締役	土地利用型 (水田)	伊賀米コシヒカリの生産を中心に、県内最大規模の水稲種子を生産。中山間地域において、スマート農業を積極的に導入。
	2	山崎 能央 (埼玉県) (株)ヤマザキライス 代表取締役	土地利用型 (水田)	埼玉県東部で水稲を中心に約110haを経営。スマート技術やデータに基づいた生産によるコスト削減で、高い利益率を目指す。内閣府農林水産ワーキング・グループ等に参加。
学識経験者・関係団体	3	酒井 俊典 三重大学 生物資源学部 特任教授(前副学長・理事)	学識経験者	専門分野(農業土木学、地域防災学) 農業土木学会等に所属、農業・農村土木学、地域防災の専門家。 「三重県地方創生検証会議」委員(2023、2024年)
	4	鈴木 充 マックスバリュ東海(株)	流通・消費業界	マックスバリュ東海株式会社 執行役員 営業本部 第一事業部長

(参考人)

参考人(農業者)	1	小島 久典(松阪市・津市) (株)小島ファーム 代表取締役	土地利用型 (水田)	松阪市・津市を中心に約150haの農地で、水稲、小麦、大豆等を生産する大規模土地利用型農業法人。農地の大規模集約化とスマート技術の活用によるコスト削減、米の海外輸出等に取り組む。
	2	小竹 行哉(明和町) (株)ヤマヨ組 代表取締役	土地利用型 (水田)	明和町を中心に、水稲・小麦・大豆・野菜生産のほか、農作業受託事業を手掛ける大規模土地利用型農業法人。効率化のため、無人ヘリやドローン、自動操舵等、先進農機を活用した営農を行う。三重県指導農業士。
	3	松岡 千恵 (菟野町) (株)ふあーむまつおか 取締役	土地利用型 (水田)	地域の中核農業者として、水稲(15ha)、大豆・小麦(10ha)、野菜等の栽培のほか、餅加工等の6次産業化による複合経営に取り組む。三重県農村女性アドバイザー。
参考人(関係団体)	8	伊藤 雅敏	農業団体	三重県土地改良事業団体連合会 事業部長
	9	矢田 敬祐	農業団体	三重県農業協同組合中央会 企画総務部 企画調整課長

(順不同 敬称略)

三重県農業の将来を考える懇話会 スケジュール(案)

R 7	懇話会	水田農業部会
4月		
5月	第1回懇話会 (5/29) ・特に生産力強化、販路開拓の議論を進める ・本県で割合の大きい水田農業部会の設置を提案	○具体的な議論を行うため、別に「品目を特定した部会」を設置 ⇒品目に関する農業者、有識者、販売・流通事業者で構成
6月	○必要に応じ、委員から追加の意見を聴取する ○委員から聴取した意見について調査検討する(先進事例、本県、他県の状況、メリット・デメリット、実現可能性等)	
7月		水田農業部会① (7月下旬) ・農業者、有識者ヒアリング ・生産力強化等の議論を進める
8月		水田農業部会② ・先進事例(現地等)調査
 情報共有		
9月	○必要に応じ、農業者、関係団体、有識者等を対象にアンケート調査なども意見聴取の一環として実施を検討	
10月	第2回懇話会 ・水田農業部会の検討もふまえ、生産力強化等の議論を進める ・販路開拓の議論	
11月	 情報共有	水田農業部会③ ・令和7年度結論
12月		
1月	○委員から聴取した意見について調査検討	
2月	第3回懇話会 ・R7年度結論 ・販路開拓の整理	
3月		